

# 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月  
盛岡市（岩手県）

## 全体総括

○計画期間；平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

### 1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

「商店街の賑わいや魅力を楽しむ」「暮らしや便利さを感じる」「盛岡の歴史や文化に触れる」中心市街地の形成を基本方針として、認定された基本計画に基づき、各事業を実施したところ、中心市街地の商店街や個店の魅力が高まり、来街者数の増加が見られる地域もあることから、限定的ではあるが活性化が進んでいることが認められる。

特に、大通三丁目地区再開発ビル建設事業によって建設された「クロステラス盛岡」から盛岡駅までの地域や東大通商店街、肴町商店街などの地域では、大通三丁目再開発ビル建設事業及び歴史文化施設整備事業実施が、まちのにぎわいの創出に大きく寄与しており、事業の成果が現れている。

### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

#### 【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

計画していた65事業のうち完了したのは14事業、着手後未完了である事業が7事業、計画期間終了後も継続実施する事業が36事業の計57事業である。主に市などが実施主体となっている事業については当初の計画に沿って概ね順調に進捗しているが、これに対し民間事業者が実施主体となっている事業では、地域経済の低迷や東日本大震災の影響により、計画期間内に着手できていない事業が8事業あった。

特に、主要事業として位置づけていた「中ノ橋通一丁目プロジェクト」は、既存建物を有効利用する方向で計画を見直していたところ、爆発事故による建物の損壊や実施主体の民事再生法適用などが重なり、計画期間内に事業を完了するのは困難な状況であった。

また、「バスセンター周辺地区再整備事業」も、交通ターミナル機能に的を絞った現在と同

規模程度の施設への建替えという方向性で計画内容を見直しているが、事業化には時間を要する状況であるため、当該事業に関しても計画期間内の事業完了は困難であった。

一方で、完了した「中ノ橋一丁目八幡町線道路整備事業」を契機にまちづくりに対する機運が高まり、平成22年度に「もりおか八幡界隈まちづくりの会」が設立され、平成24年度から「八幡ぼんぼこ市」が月1回定期的に開催されるようになったほか、「歴史文化施設周辺整備事業」で整備された「もりおか歴史文化館」前広場では、もりおか広域まるごとフェアなど数多くのイベントが開催され、賑わいの創出の拠点となっている。

基本計画を総合的に判断すると、毎年2月下旬に実施している空き店舗調査による中心市街地の空き店舗数の増加に歯止めがかかり、事業が完了した駅前周辺や内丸・肴町周辺の地域では通行量が増えているなど着実に活性化が進んでおり、全地域における個別の目標数値については達成できなかったものの、徐々にではあるが賑わいの回復が図られてきており、一定程度活性化が図られたと思われる。また、今後未完了の事業を継続的に進めていくことにより中心市街地全体の活性化が図られるものと考えている。

### 3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（盛岡市としての見解）

活性化が図られた要因としては、計画の見直しを迫られた事業はあったものの着実に計画事業を実施し、主要事業として位置付けた「歴史文化施設建設事業」や「大通三丁目地区再開発ビル建設事業」による施設整備事業に加え、平成21年には「歴史文化施設周辺整備」、平成24年には「盛岡スクエア（まちなかポータルプロジェクト：戦略補助金）」などを追加事業として計画に位置づけ、活性化の推進に努めたこと。また、当該施設を活用したソフト事業が活発に行われるようになり、一定の成果を挙げたものと考えられる。

一方で十分に活性化が図られなかった要因としては、民間事業者により実施される予定であった「中ノ橋通一丁目プロジェクト」や「バスセンター周辺地区再整備事業」などの事業が、基本計画認定後の経済情勢の変化による先行きの不透明感や採算性の問題に加え、地震など自然災害による不測の事態が生じたことなどの影響により事業着手できず、活性化を図るための事業が完了しなかったこと、また、商店街では郊外型大型店の出店や消費者ニーズの多様化などにより卸・小売事業者数が減少したほか、主要事業の一部実施箇所と周辺エリアの連携が十分でなかったことなどにより、賑わい創出が面的広がりを呈しなかったためと考えられる。

### 4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて（協議会としての意見）

#### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

#### 【詳細を記載】

中心市街地活性化協議会では、これまで12回開催された会議を通じ、基本計画で目指す中心市街地の姿を実現するために、支援、協力を行ってきた。民間事業である「大通3丁目地区再

開発ビル建設事業」(クロステラス盛岡)や、盛岡市が事業主体となった「盛岡駅東西自由通路整備事業」や「歴史文化施設整備事業」は事業が完了し、中心市街地を横断する軸が強化され、街の賑わい創出に一定の寄与があったと考えられ、整備地域周辺での「中心市街地の歩行者・自転車通行量」及び「盛岡市街への観光客入込数」が、増加したこと等により一定の成果は見られた。一方で、河南地区の事業が未着手のまま期間の満了を迎え、また事業計画が変更となったこと、さらには震災関連による同地域の核となる大型店が閉鎖したことなどにより、想定された活性化までには至らなかった。

活性化基本計画の事業遂行により、中心市街地全体としては、活性化に一定の効果があったものと評価している。

## 5. 市民からの評価, 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

### 【詳細を記載】

平成18年度と平成24年度に市民に対して実施した中心市街地活性化に関するアンケートによれば、「中心市街地に魅力を感じますか」という質問に対して、魅力を感じるという回答の割合は4.5%減少しており、活性化しているとは言いがたい傾向が見られる。その一方で、中心市街地に対するイメージについての質問については、「歩きにくい歩道がある」、「治安面に不安がある」、「高齢者が利用できる施設が少ない」といったマイナス面の回答は軒並み減少しており、「魅力あるお店や商業施設がある」については若干増加しており、中心市街地への施設整備等による事業の成果が見られる。今後は、計画期間中に未着手である事業について実施を進めるとともに、事業実施を図ったエリアで生み出された賑わいを中心市街地全域に拡大していく事業に取り組んでいくことにより、市民意識の更なる向上が図られていくものと考えられる。

### アンケート結果の詳細

#### ○ アンケートの実施方法等について

区分	平成18年度	平成24年度
実施時期	平成18年7月	平成24年10月
調査範囲	盛岡市全域	
調査対象者	盛岡市に居住する満20歳以上の者	
調査票配布数	1,000人	2,000人
抽出方法	住民票ファイル(平成18年6月1日)から等間隔無作為抽出	住民票ファイル(平成24年7月1日)から等間隔無作為抽出
回答数	517人	933人
回答率	51.7%	46.7%

○ 現在の盛岡市の中心市街地に魅力を感じますか

★ 魅力を感じる割合が減少(△4.5%)

区分	H18	H24	比較
感じる	17.6%	13.1%	△4.5%
感じない	37.7%	36.5%	△1.2%
どちらともいえない	42.4%	39.5%	△2.9%
分からない	1.7%	3.8%	2.1%
無回答・非該当	0.6%	7.1%	6.5%
計	100.0%	100.0%	0.0%
有効回収数	517	933	416

○ 現在の盛岡市の中心市街地に魅力を感じますか。3つまで。

★ 公共的な施設が多いという意見が増加(10.2%)，自然が豊かであるという意見が減少(△21.6%)，高齢者が利用できる施設が少ないという意見が減少(△5.5%)，歩道が歩きにくい  
が減少(△4.5%)，治安面に不安があるが減少(△6.4%)

区分	H18	H24	比較
公共的な施設が多くある	10.8%	21.0%	10.2%
魅力あるお店や商業施設がある	6.0%	7.0%	1.0%
官公庁街やオフィス街である	33.7%	39.8%	6.1%
川や緑など自然が豊かである	62.1%	40.5%	△21.6%
歴史的な建造物や街並みが残っている	27.1%	22.8%	△4.3%
駐車場が少ない	35.6%	30.9%	△4.7%
一方通行や狭い道路が多い	36.8%	40.4%	3.6%
若者が楽しめる施設が少ない	16.2%	16.7%	0.5%
高齢者が利用できる施設が少ない	29.6%	24.1%	△5.5%
自転車が近く、歩きにくい歩道がある	16.8%	12.3%	△4.5%
治安面に不安がある	8.7%	2.3%	△6.4%
その他	7.0%	3.8%	△3.2%
分からない	2.1%	4.8%	2.7%
無回答	0.0%	4.1%	4.1%
計	292.5%	270.5%	△22.0%
有効回収数	517	933	416
延べ回答数計	1,512	2,523	1,011

## 6. 今後の取組

第1期計画で計画された65事業のうち、完了・着手済みの57事業により、徐々にではあるが賑わいの回復が図られてきており、目標は達成できなかったものの、実施した事業の成果が着実に現れてきていると考えられる。しかし、グローバルな経済情勢や東日本大震災の影響をはじめ、郊外大型店への購買者流出、第1期計画の未実施事業などにより中心市街地活性化基本計画事業がもたらすと想定した事業効果が十分に現れなかったこと、主要事業の一部実施箇所では、商店街活動に参画しない飲食店が増加したことなどから、賑わい創出が周辺に波及せず限定的であったこと、さらには第1期計画策定当時と比較し、売上や経常利益が大幅に落ち込んでいるとの事業者アンケート結果もあり、このままでは中心市街地はもとより市全体の衰退にも繋がりがねないことから、引き続き、中心市街地の活性化を図っていくことが必要と考える。

第2期計画策定にあたっては、第1期計画の事業実施効果、市民や事業者へのアンケート調査、さらには盛岡市中心市街地活性化協議会等からの意見を参考に、居住者、来街者、観光客が中心市街地エリア内を回遊しやすくし、買い物や食事、行政手続、医療、観光などの面において、今まで以上に、便利と感じたり、魅力を感じたりできることが求められており、このためには第1期計画の基本テーマである「触れる・感じる・楽しむ 元気な街『もりおか』」を継続し、さらに充実・追加していくことが必要である。また、中心市街地活性化に取り組むとともに、東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸地域の復興支援のためにも、当該中心市街地の活性化により、県内経済を牽引していく必要があると考えている。

また、第2期計画は、第1期計画で未着手及び未完了の施設整備事業、新規事業、継続事業を実施するほか、盛岡駅周辺エリア、大通・菜園エリア、盛岡城跡公園周辺エリア、河南エリアを拠点エリアとしてとらえ、それぞれのエリアの特徴を活かした取組を展開することにより、居住人口と交流人口を増加させ、回遊性を高めることなどにより中心市街地の活性化を図っていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
賑わいあふれる 中心市街地	中心市街地の小 売年間販売額	816 億 5,900 万 円(H19)	869 億 3,900 万 円(H24)	709 億 8,000 万円 (H24)	H25.6	<u>c</u>
	中心市街地の歩 行者・自転車通 行量	50,260 人(H19)	51,100 人(H25)	48,332 人 (H25)	H25.4	<u>c</u>
訪れたいなる 中心市街地	盛岡市街の観光 客入込数	365 万 人(H19)	372 万 人(H24)	383 万人 (H24)	H25.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a, b, c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

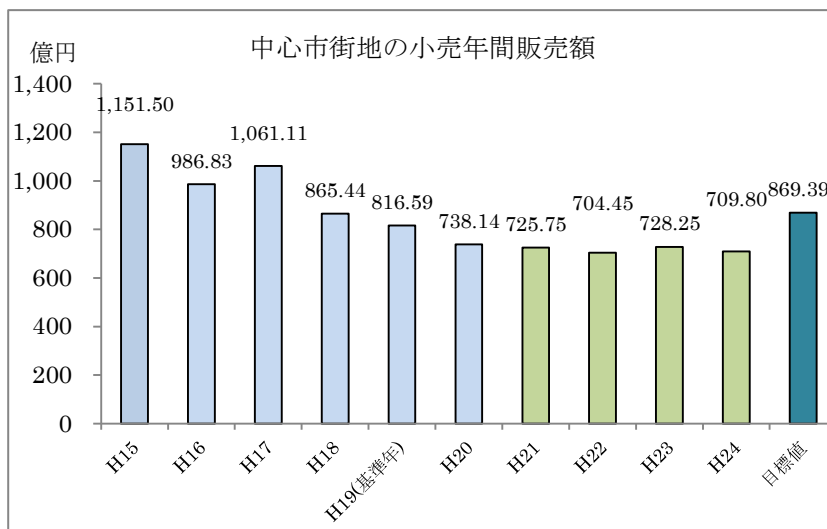
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

### 目標「賑わいあふれる中心市街地」

「中心市街地の小売年間販売額」※目標設定の考え方基本計画P67～P72参照

#### 1. 目標達成状況の総括



年	(億円)
H19	816.59 (基準年値)
H20	738.14
H21	725.75
H22	704.45
H23	728.25
H24	709.80
H24	869.39 (目標値)

※調査方法：平成16年商業統計調査の実数に、大型店及び商店街組合から聴取した状況で補正した推計値

※調査月：平成16年6月時点調査（商業統計調査）、盛岡市独自調査 毎年度5月実施、6月取りまとめ

（前年度分（4月～翌年3月分。ただし、大型店は各店舗の該当決算期分）の年間小売販売額等を調査）

※調査主体：商業統計調査を基に盛岡市の独自調査により補正し、盛岡市が推計

※調査対象：中心市街地の小売業者

#### 【総括】

- 平成24年度の中心市街地小売年間販売額は709.8億円となり、目標額869.39億円の81%であった。
- 「中心市街地の小売年間販売額」の増加に資する主要事業6事業のうち2事業が未着手となり、完了した事業でもほとんどの事業で当初の目標値が達成できなかった。
- 中心市街地への来街者の増加は見られるものの、経済情勢の悪化による全国的な消費の落ち込みや郊外への大規模店舗の出店に伴う中心市街地への求心力の低下などにより、小売年間販売額の増加に結びつかなかった。

#### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

##### ①. 大通三丁目地区再開発ビル建設事業（三田農林株式会社）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	平成20年度～平成21年度
事業概要	従前平面駐車場であった区域に、1～2階を商業施設、3～5階を自走式立体駐車場とした、郊外型と異なる周辺への回遊性が高い施設を整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>20億9,000万円</u> (最新値) <u>8億1,000万円</u>

達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	一定の効果をあげているものの、1㎡当たりの売上額から見れば、当初見込みの4割程度に留まっている。景気の低迷による消費者の購買意欲の減退や節約意識の高まりによる買い控え、購入単価の低下などにより、目標の販売額を達成できなかったと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	事業実施により、中心市街地全体の小売年間販売額704億4,500万円の約1%を占めるに留まるが、中心市街地内で小売年間販売額8億1,000万円が増加した。
大通三丁目地区再開発ビル建設事業の今後について	事業完了

②. 中ノ橋通一丁目プロジェクト(株式会社中三)

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	未着手
事業概要	老朽化した既存の百貨店を建て替え、商業施設と居住施設を配した複合ビルを整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>3億1,500万円</u> (最新値) <u>0円</u> (未着手のため)
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	既存建物を有効活用する方向で事業の見直しを行っていたが、平成23年3月に実施主体が民事再生法の適用となった。新たな実施主体により、新しい店舗として平成24年10月に再開したが、当初計画の事業実施は不可能となっている。
計画終了後の状況(事業効果)	事業未着手のため事業効果は発現していない。
中ノ橋通一丁目プロジェクトの今後について	当初計画の事業の継続は困難である。

③. バスセンター周辺地区再整備事業(盛岡市・盛岡まちづくり(株)外)

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	未着手
事業概要	敷地が手狭となっているバスセンターと周辺地を含めた敷地の共



	同化と高度利用による複合施設を整備。バスターミナル機能や共同住宅、ケアマンション、子育て支援施設及び店舗・飲食などの都市機能を導入。
目標値・最新値	(目標値) <u>7億6,000万円</u> (最新値) <u>0円</u> (未着手のため)
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	社会情勢等の変化により床需要の減少や採算性に課題が生じたため、計画内容の見直しを進めており、交通ターミナル機能に的を絞った現在と同規模程度の施設への立替という方向性が示されているが、事業化には時間を要する状況であり、計画期間内に事業完了が出来なかった。
計画終了後の状況(事業効果)	事業未着手のため事業効果は発現していない。
バスセンター周辺地区再整備事業の今後について	現在の盛岡バスセンター建物の全てを改築し、バスターミナル機能の再整備を図るとともに、商業施設等都市機能を導入する事業を第2期計画に位置付けることとしている。

④. 空き店舗活用促進事業（盛岡市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度
事業概要	中心市街地の商店街にある空き店舗への出店にあたり、店舗の内装、外装、給排水設備、電気設備等の改装工事を行う場合、その改装工事費の一部を補助する。(対象経費の2分の1, 限度額30万円)
目標値・最新値	(目標値) <u>13億5,000万円</u> (最新値) <u>2億700万円</u>
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	空き店舗に新規出店する店舗数が5年間で29店舗となり、当初見込の6割に留まったが、補助金対象外である飲食店の空き店舗への出店が多かったためである。また、1店あたりの年間小売販売額を平均すると約1,100万円想定で約4割の額であり、補助金を活用する小売店舗が当初の想定よりも比較的小規模な店舗であったことが考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	例年2月に実施している空き店舗調査によると、空き店舗数の増加に歯止めがかかったことから、目標額は達成することができなかったものの、中心市街地への出店に一定のインセンティブを与える事業として定着してきたものと考えられる。

空き店舗活用促進事業の今後について

引き続き、より効果的な補助となるように制度の見直しも検討しながら、事業実施を行っていく予定である。

### 3. 今後について

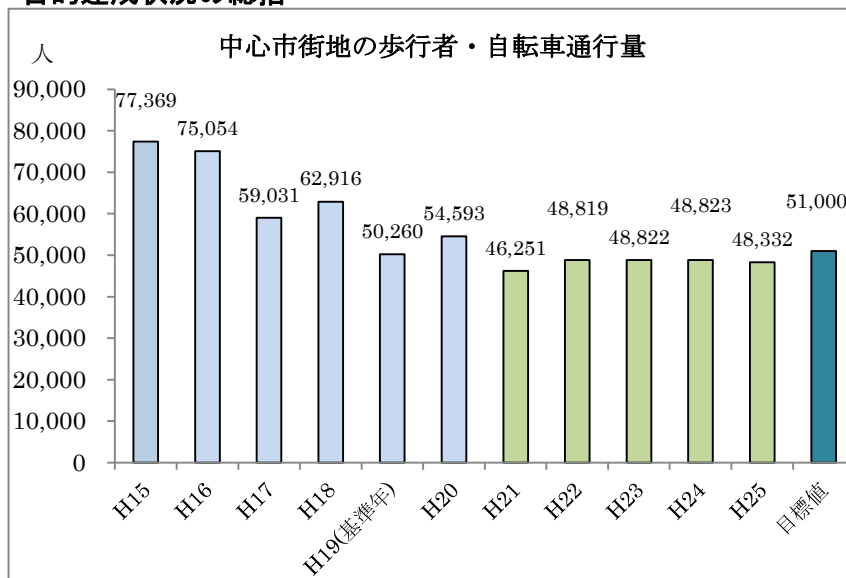
達成できなかった事業については、引き続き第2期中心市街地活性化基本計画の中に位置づけ、事業実施を推進していく予定である。「中心市街地の小売年間販売額」を増加させていくことは、中心市街地の賑わいの状況を把握するのに重要な指標であるが、大型店以外の正確な基礎データの把握が困難であり、デフレなど外的要因の影響を受けやすいことから、引き続き小売年間販売額の把握には努めるものの、第2期計画では、「中心市街地の小売年間販売額」を指標として採用せず、「中心市街地の歩行者・自転車通行量」及び「大通コアエリア周辺の居住人口」を中心市街地の賑わいに関する指標として設定する予定である。

## 個別目標

### 目標「賑わいあふれる中心市街地」

「中心市街地の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P73～P78 参照

#### 1. 目的達成状況の総括



年	(人)
H19	50,260 (基準年値)
H20	54,593
H21	46,251
H22	48,819
H23	48,822 (参考値)
H24	48,823
H25	48,332
H25	51,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（毎年度3月に実施）

※調査月：平成23年3月実施、4月取りまとめ

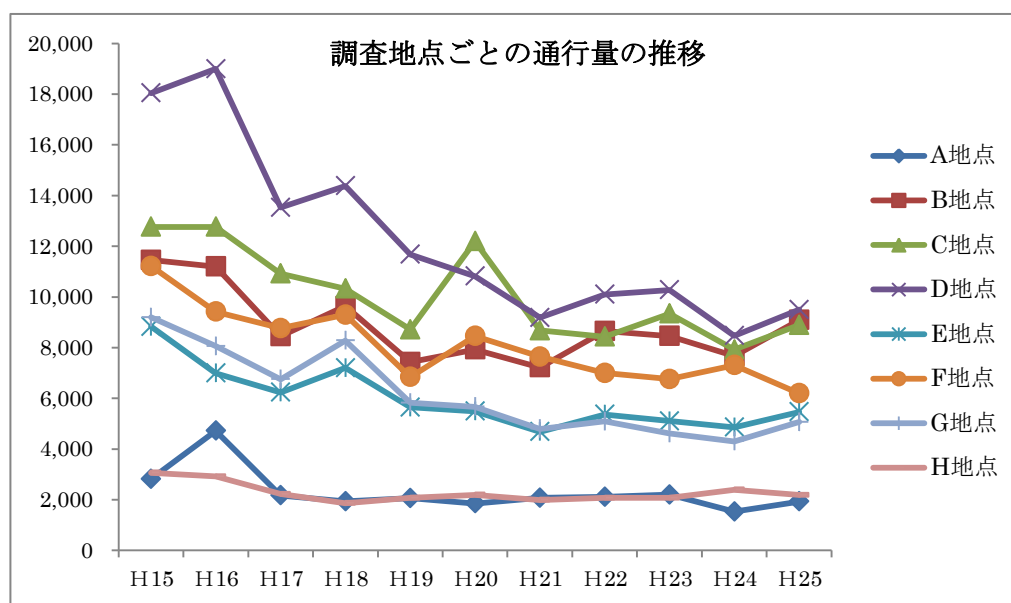
※調査主体：盛岡まちづくり㈱

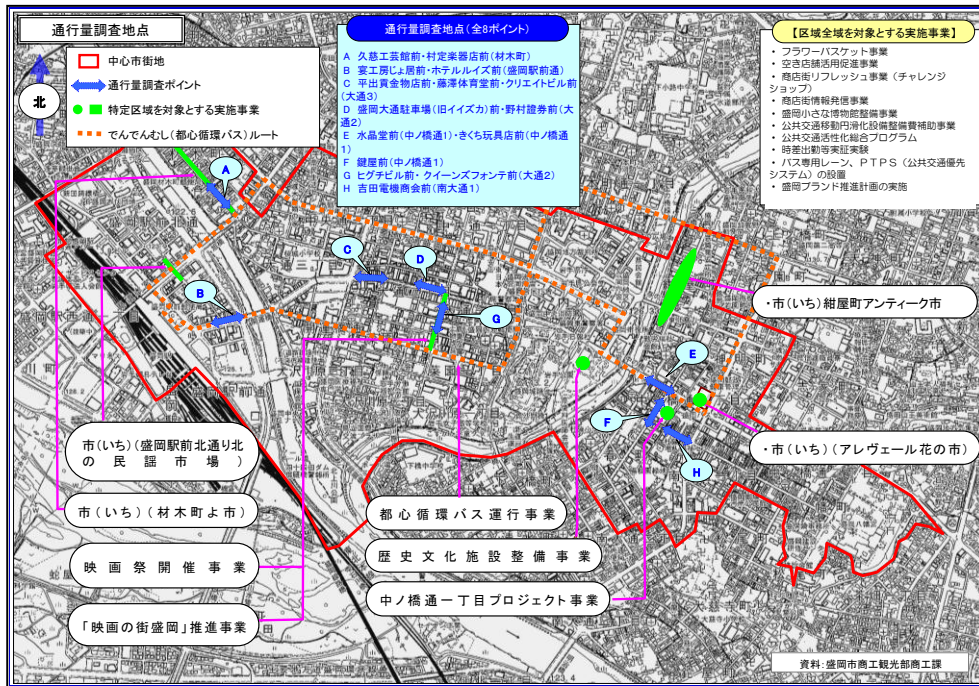
※調査対象：歩行者及び自転車通行者、平日及び休日の2日間8地点（数値は加重平均）

※平成23年は、東日本大震災の発生により3月中の調査ができず、4月に調査を行ったため参考値とした。

#### 【総括】

- 目標値は達成できなかったものの、事業実施により、事業の近隣地区であるB地点(盛岡駅前通)及びC地点(大通三丁目)の通行量の増加には一定の効果が図られた。
- 「大通三丁目地区再開発ビル建設事業」及び「歴史文化施設整備事業」により整備された施設の立地場所近辺の通行量に増加が見られたものの、両事業の間のエリアの通行量が減少しており、来街者を回遊させる取組が不足していたものと考えられる。





## 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 歴史文化施設整備事業（高次都市施設と地域創造支援事業の合築施設）（盛岡市）

支援措置名及び支援期間	支援措置 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成23年度
事業概要	旧岩手県立図書館を活用し、歴史文化展示機能、文化観光交流機能市民活動支援機能等を有する歴史文化施設を整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>218人</u> (最新値) <u>360人</u>
達成状況	達成
達成した(できなかった理由)	施設が開館してから間もないこともあり当初の見込みを上回る効果が発現している。
計画終了後の状況(事業効果)	入館者数が増加し、入館者が周辺の商店街への回遊することにより、中心市街地の賑わいが創出されたことで、目標自体は達成することができた。ただし、事業実施による賑わいの創出と既存商店街等との取組の連動性を十分に図ることができなかったことなどにより、事業効果が限定的なものに留まった。
歴史文化施設整備事業の今後について	事業完了

### ②. 大通三丁目地区再開発ビル建設事業（三田農林株式会社）

支援措置名及び支援期間	支援措置 なし
事業開始・完了	平成20年度～平成21年度

時期	
事業概要	従前平面駐車場であった区域に、1～2階を商業施設、3～5階を自走式立体駐車場とした、郊外型と異なる周辺への回遊性が高い施設を整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>200人</u> (最新値) <u>360人</u>
達成状況	達成
達成した(できなかった理由)	施設が開館してから間もないこともあり当初の見込みを上回る効果が発現している。
計画終了後の状況(事業効果)	盛岡駅から当該施設及び近隣の商業施設MOS S周辺の地点の通行量が増加しており、一定の効果の発現が見られるが、計画で想定していた大通商店街への回遊が少なく、波及効果は限定的なものとなっている。
大通三丁目地区再開発ビル建設事業の今後について	事業完了

③. 中ノ橋通一丁目プロジェクト (株式会社中三)

支援措置名及び支援期間	未着手
事業開始・完了時期	未着手
事業概要	老朽化した既存の百貨店を建て替え、商業施設と居住施設を配した複合ビルを整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>1,125人</u> (最新値) <u>0人</u> (未着手のため)
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	既存建物を有効活用する方向で事業の見直しを行っていたが、平成23年3月に実施主体が民事再生法の適用となった。新たな実施主体により、新しい店舗として平成24年10月に再開したが、開店間もない状況であることから十分なデータが揃っていない状況である。
計画終了後の状況(事業効果)	事業未着手のため事業効果は発現していない。
中ノ橋通一丁目プロジェクトの今後について	当初計画の事業の継続は困難である。

④. バリアフリー化設備等整備事業 (バス事業者)

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
-------------	--------

事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度
事業概要	バリアフリー低床バスの導入により，人に優しく，利用しやすい公共交通に転換を図り，「暮らしや便利さを感じる中心市街地の形成」の実現を目指す事業。
目標値・最新値	(目標値) <u>4,188人</u> (最新値) <u>3,823人</u>
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	当初の計画よりも導入ペースが遅く，人に優しく，利用しやすい公共交通への転換がまだ十分に浸透していないため。
計画終了後の状況(事業効果)	当初見込みを若干下回っているが，都心循環バスの利用が順調であるほか，高齢者優待バスの導入によるバス利用への転換などにより，公共交通機関の利用が図られている。
バリアフリー化設備等整備事業の今後について	事業完了。ただし，第2期中心市街地活性化基本計画に，人に優しいノンステップバス等の導入により公共交通への転換を図り，交流人口の増加を推進する「ノンステップバス等導入事業」を実施していく予定である。

⑤. 盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業（宮城開発株）

支援措置名及び支援期間	支援措置なし
事業開始・完了時期	平成22年度～平成24年度
事業概要	民間による再開発事業。現在，平面駐車場である事業地にマンションを建設することにより，周辺地域での交流人口を増加させ，賑わいを創出する事業。
目標値・最新値	(目標値) <u>864人</u> (最新値) <u>399人</u>
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	事業実施場所から，調査地点までの回遊が当初想定していたほどなかったため目標の達成には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	目標値には達成しなかったものの，中心市街地へのマンション建設による，回遊人口は確実に増加しており，賑わいに寄与したと考えられる。
盛岡表参道・暮らしと賑わい再生事業の今後について	事業完了

### 3.今後について

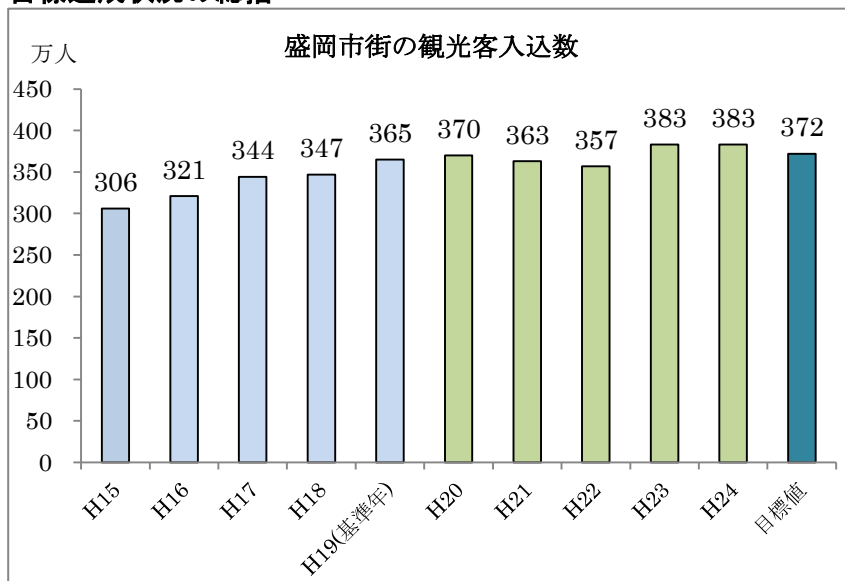
中心市街地の歩行者・自転車通行量については、引き続き第2期中心市街地活性化基本計画の指標とし、既存商店街施設の充実や共同催事など各商店街や商業施設間の連携を強めることなどにより、中心市街地全体での回遊性を向上させ、第1期計画では事業実施をした周辺地域だけに留まった通行量の増加を、中心市街地全体の通行量の増加につなげていくこととする。

個別目標

目標「訪れたいくなる中心市街地」

「盛岡市街への観光客入込数」※目標設定の考え方基本計画 P79～P81 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(万人)
H19	365 (基準年値)
H20	370
H21	363
H22	357
H23	383
H24	383
H25	372 (目標値)

※調査方法：市街地の宿泊施設や高速道路、バス、鉄道の利用者の調査

※調査月：3月（前年分（1月～12月））

※調査主体：宿泊施設や交通機関からの回答を盛岡市が集計

※調査対象：市街地宿泊施設、市内及び近郊高速インターチェンジ3地点、盛岡バスセンター及びJR盛岡駅

【総括】

- 震災の影響により観光客の入込数の減少などにより目標が達成できない事業があった一方で、盛岡さんさ踊りなど過去最高の観客数を記録するイベントがあるなど、全体としては目標を達成することができた。

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 歴史文化施設整備事業（高次都市施設と地域創造支援事業の合築）（盛岡市）

支援措置名及び支援期間	支援措置 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成23年度
事業概要	旧岩手県立図書館を活用し、歴史文化展示機能、文化観光交流機能 市民活動支援機能等を有する歴史文化施設を整備。
目標値・最新値	(目標値) <u>114,000人</u> (最新値) <u>171,701人</u>
達成状況	達成
達成した(できなかった理由)	24年4月～6月の「いわてディスティネーションキャンペーン」や 5月の東北六魂祭などにより、盛岡市の観光資源のPRとなったことで 盛岡市を訪れる観光客数の増加につながった。
計画終了後の状況(事業効果)	当該施設の開館による観光客入込数の増加は、計画の想定を上回っ ており、近隣地点の通行量の増加にも貢献している。
歴史文化施設整備事業の今後について	事業完了

②. 盛岡ブランド推進計画の実施（盛岡ブランド推進戦略会議）

支援措置名及び支援期間	支援措置 なし
-------------	---------



事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度
事業概要	盛岡がもっている有形無形の財産（価値）を育み活かす地域ブランドづくりを行うとともに、イベント等により効果的に情報発信し、「暮らしたい」、「訪れたい」などと選ばれるまちとしていく事業。
目標値・最新値	(目標値) <u>50,000人</u> (最新値) <u>0人</u> (基準年である平成19年度の観光客数を下回ったため)
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	平成24年のいわてデスティネーションキャンペーンや東北六魂祭が開催をきっかけに観光客数が増加した、その一方で震災の影響により観光客の入込が減少した祭りがあり、基準年の観光客数を下回ったため
計画終了後の状況(事業効果)	盛岡さんさ踊りは平成23年度に過去最高の観客数(1,361,000人)となるなど、一定の効果を見せている。
盛岡ブランド推進計画の今後について	第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画に基づき、引き続き効果的な情報発信に取り組みながら、観光客数の増加を図っていく。

③. 「映画の街盛岡」推進事業（盛岡市）

支援措置名及び支援期間	支援措置 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度
事業概要	行政、市民及び関係団体などが連携し、路地小路ネーミングやミニシアターなどを実施し、「映画の街盛岡」の情報発信を行う。
目標値・最新値	(目標値) <u>3,300人</u> (最新値) <u>0人</u> (基準年であるみちのく国際映画祭の入場者数を下回ったため)
達成状況	未達成
達成した(できなかった理由)	「映画」を地域資源とし、各種事業を全国に情報発信しているが、映画祭については、予算規模の縮小により、みちのく国際映画祭に比べ観光客の誘客効果は低下しており目標を達成できなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	目標値の根拠となったみちのく国際映画祭の集客数に達しなかったことから、事業効果としては発現していないが、もりおか映画祭や素敵なまちの映画会などの実施により一定程度の集客は確保している。
「映画の街盛岡」推進事業の今後について	第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画に基づき、引き続き、市民や地元企業、商店街等と連携し、市民協働の映画祭として中心市街地活性化を図りつつ観光客誘客につながる魅力ある映画祭になるよう実施内容の更なる充実を図っていく。

④. 市（いち）の開催（各実行委員会ほか）

支援措置名及び支援期間	支援措置 なし
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度
事業概要	材木町・盛岡駅周辺地区・紺屋町・中ノ橋通などで山菜・魚介類・花卉・アンチックなどの市を開催。
目標値・最新値	(目標値) <u>20,850人</u> (最新値) <u>98,347人</u>
達成状況	達成

達成した(できなかった理由)	盛岡駅前やもりおか歴史文化館前広場などで、比較的規模が大きく、広域から来場者を見込める復興支援イベントの取組が多くなり、当初見込みを上回っている。
計画終了後の状況(事業効果)	市(いち)等のイベント実施回数が増えたことにより、観光客数の増に寄与したと考えられる。
市(いち)の開催の今後について	第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画に基づき、引き続き定期的な市の開催を推進し、観光客数の増加を図っていく。

### 3. 今後について

第1期計画の取組により、平成24年度の盛岡市街への観光客入込数は383万人となり、当初の目標を上回っており、第1期計画の指標の中では唯一目標が達成できた指標である。

今後第2期計画においては、観光客入込数に加えて、定期的に調査している「盛岡市街の宿泊観光客数」を指標として設定するものとする。宿泊観光客数の増加は観光消費額の増につながり、中心市街地の活性化につながるものといえることから、その増減を把握、分析することは、今後の施策の方向性を図れる指標となりうるものであり、毎年正確な数字を把握できることから、フォローアップにおいても目標達成に関する事業の進捗の確認及び状況に応じた措置を行うことができる。